

感染症分野

研究領域

「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2019年	研究期間	5年間
研究課題名	マラリアのない社会の持続を目指したコミュニティ主導型統合的戦略のための分野融合研究プロジェクト		
研究代表機関	大阪市立大学 大学院医学研究科		
相手国	ケニア共和国	主要相手国 研究機関	マウント・ケニア大学
研究課題の概要			
<p>ミレニアム開発目標の努力にもかかわらず、熱帯アフリカでは5歳以下小児を中心に年間50万人がマラリアで命を落としている。その背景には、隠れた感染源としての無症候性感染者、媒介蚊が獲得する殺虫剤・行動耐性、予防や治療における不適切な人間行動などの課題がある。本研究はケニア・ヴィクトリア湖地域において、治療システムとコミュニティー介入における分野融合の実証研究を通じて、対象地の5歳以下小児マラリア死亡ゼロを目指し、熱帯アフリカのマラリアベルト地帯における有効で実施可能な撲滅対策パッケージを提案する。本研究開発では、従来マラリア対策の対象とはされなかった無症候性感染に対する普遍的診断治療アプローチを実施することにより、5歳以下小児死亡を引き起こすマラリア伝播の制圧に挑む。またマラリア診断・治療や媒介蚊対策における新技術を導入すると同時に、行動経済学的アプローチによる住民の意識改革、行動変容を図る。対策の要となるマラリア撲滅センターでは、乱立する健康データの統合を行い、分野融合研究基盤の構築、さらには人材育成、研究交流、資金調達を加速させ、熱帯アフリカにおける統合的マラリア撲滅戦略を策定する。</p>			